

卫生材料格納保全之法

衛生材料格納保全方法

大正十四年五月十五日
昭和十五年五月二十日
印刷發行
九版發行

衛生材料格納保全方法
(定價 金參拾五錢)

翻刻
發行者

代表者 小林又七
兵用圖書株式會社

印刷者

東京市麴町區永田町一丁目四番地
小林又七

印刷所

陸軍省構内
小林印刷所

電話銀座(57)三〇六九番

發賣所

東京市麴町區永田町一丁目四番地
川流堂小林又七

電話九段(33)八五一九番
振替東京二九六番

衛生材料格納保全方法

第一章 通 則

第一條 戰用衛生材料ノ格納保全ハ本規定ニ依ル

常用衛生材料ハ必要ノ程度ニ應シ之ヲ準用スヘシ

第二條 土地、氣象ノ關係其ノ他特種ノ事由ノ爲本規定ニ依リ難キ點ハ實驗ニ基キ適宜ノ斟酌ヲ加フルコトヲ得但シ此ノ場合ニ在リテハ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第三條 本規定ニ明示セサル材料ノ格納保全ハ本規定中ノ類似品ニ準據スヘシ

第四條 倉庫ハ常ニ清潔ニ保持シ乾燥ヲ圖ルヘシ之カ爲快晴ニシテ風ノ強カラサル日ヲ選ヒ窓ヲ開キ直射光線ヲ避ケテ通氣ヲ圖ルヘ

シ濕氣多キ倉庫ニ在リテハ特ニ通氣乾燥ヲ必要トス

倉庫内ニハ鼠ノ侵入スルコトヲ防クヘシ

第五條 戸棚、置棚等ヲ配列スルニハ動員等ノ際ニ於ケル作業ノ爲相
當ノ間隔ヲ保タシメ且壁面トノ接觸ヲ避クヘシ

第六條 材料ヲ格納スルニ際シテハ之ヲ壁面及天井ニ近接セシムヘ
カラス

第七條 材料ヲ床上ニ積ムニハ臺若ハ枕木ヲ用ヒ且床面ノ荷重力ヲ
顧慮スヘシ

第八條 凡テ破損シ易キ材料ノ格納ニ際シテハ地震等ノ場合ヲ顧慮
シ豫メ顛倒、墜落等ヲ豫防スヘシ殊ニ強酸類等ハ砂ヲ盛リタル箱内
ニ納ムルヲ可トス

第九條 倉庫内ニ於テハ塵埃ヲ飛散シ又ハ床面ヲ汚染スヘキ手入竝

梱包作業ヲ行フヘカラス

第十條 他部隊ヨリ到著セル材料ノ梱包ハ倉庫外ニ於テ開梱シ其ノ内容品ニ就キ蟲害ノ有無ヲ點檢シ危害ノ虞ナキヲ確認シタル後ニアラサレハ之ヲ倉庫内ニ格納スヘカラス

第十一條 材料ヲ格納スルニ當リテハ其ノ内容品ノ點檢ヲ確實ニシ且發銹、破損又ハ變質ノ有無ヲ檢スヘシ

第十二條 濕潤セル材料ハ乾燥後ニアラサレハ格納スヘカラス

第十三條 窓日覆ハ器械、消耗品倉庫ニ在リテハ白色、藥物倉庫ニ在リテハ黑色若ハ茶褐色ノモノヲ用ヒ幅廣ク地質佳良ナルモノヲ撰フヘシ器械、消耗品倉庫ノ一部ニ藥物ヲ格納スルトキハ其ノ棚ニハ著色布ヲ用フヘシ

第十四條 材料ヲ格納セル棚ニハ四圍ニ幕布ヲ垂レ若ハ布、紙等ニテ

材料ヲ包ミ或ハ覆ヒテ塵埃ヲ防クヘシ

第十五條 戰用衛生材料ノ格納區分ハ左ノ如シ

一 動員用品ハ品種毎ニ取纏メ動員區分並部隊別ニ分チ配列スヘシ但シ特別貯藏トナスモノハ適宜品種毎ニ之ヲ取纏メ又藥物ニシテ更新ノ關係上小分ケヲ不利トスルモノハ單ニ品種別ニ格納スルコトヲ得

二 豫備品ハ品種別トナスヘシ

第十六條 棚、戸棚等ニ格納セル戰用材料ニハ品種毎ニ附表第六ノ品目表ヲ附シ又特別貯藏トナシタルモノハ各容器毎ニ品目、數量ヲ標記シ且貯藏區分毎ニ附表第七ノ貯藏區分表ヲ附スヘシ

第十七條 材料ノ所在ヲ明ニスル爲置棚、戸棚等ノ配置圖ヲ作り倉庫内見易キ所ニ掲ケ且附表第八ノ様式ニ依リ戰用衛生材料格納表ヲ

調製シ置クヘシ

第十八條 材料ハ通視ニ便ナル如ク配列スヘシ數量多キモノハ五、十等ノ讀ミ易キ員數ヲ單位トシ形狀及大小ニ從ヒテ疊積、結束若ハ併列スヘシ

第十九條 凡テ材料ハ品種、大小ニ應シ棚、戸棚、抽斗、箱、罐ニ納メ又ハ床上ニ配列スヘシ

第二十條 「ゴム製品」ト金屬類トハ同一容器内ニ貯藏スヘカラス又金屬類ト著色布片又ハ革質トノ接觸ハ成ルヘク之ヲ避ケ、金屬類ト木質トノ接觸ハ除濕箱中若ハ多量ノ油引ヲナシタル場合ノ外之ヲ避クヘシ

第二十一條 包裝紙ノ品質ハ衛生材料消耗品解説ニ依ル其ノ使用區分ハ概ネ左ノ如シ

一 鋼製品ヲ包ム場合ニハ礪砂紙ヲ用フヘシ但シ特ニ多量ノ油引ヲナシタルモノニハ「ウイスコイド紙」ヲ用フヘシ

二 貴金屬製品ヲ包ムニハ典具帖紙ヲ用フヘシ

三 銅、眞鍮製品中損傷ヲ避ケ又ハ清潔ニ保持スヘキ必要アル器械類ハ薄葉^{ハクニラ}包裝紙ニテ包ムヘシ

四 硝子製品就中硝子計測器及光學的器械類ハ必要ノ程度ニ應シ典具帖紙又ハ薄葉包裝紙ニテ包ムヘシ

五 綿麻製品、紙製品等ニシテ汚染ヲ避クヘキモノハ褐色又ハ白色ノ包裝紙ニテ包ムヘシ

六 防塵ノ爲容器、木製品其ノ他粗大ナル器械類ヲ包ムニハ褐色ノ包裝紙ヲ用ヒ又ハ新聞紙ヲ用フヘシ但シ新聞紙ハ「印刷用インキ」ノ爲材料ヲ汚スコトアルヲ以テ注意ヲ要ス

第二十二條 貯藏材料手入ノ際ハ検査ヲ確實ニシ必要アルトキハ遲滯ナク修理若ハ更新ヲ行フヘシ

第二十三條 貯藏材料手入ノ際器械類ニ發錆及破損ノ箇所ヲ發見シ又ハ藥物、消耗品中變質シタルモノアルトキハ必ス其ノ理由ヲ探究シ同一過失ヲ反覆セサル如ク注意スヘシ又將來ノ參考ニ供スヘキ事項ハ順序ヲ經テ之ヲ報告スヘシ

第二章 手入

第二十四條 材料保全ノ爲行フヘキ手入ノ要領左ノ如シ

- 一 淨拭^{キヨブキ} 精巧ナル金屬製品ニ在リテハ清潔、柔軟ナル磨革若ハ軟布、其ノ他ノモノニ在リテハ刷毛若ハ布片ニテ拭ヒ器械ノ塵又ハ油垢ヲ除クヘシ

油垢ヲ去ルニハ「ガゾリン」石油等ヲ使用スルコトヲ得

凡テ塗料ヲ施セル諸品ハ淨拭ノ際強擦スルコトヲ避クヘシ

二 澤拭^{ツヤブキ}

銅、眞鍮、白銅製品又ハ「ニツケル鍍金」セル器械類ニ^{ツキリ}磨リ

生シタルトキハ成ルヘク磨滅ヲ招カサル如ク注意シ左ノ各號

ニ依リ之ニ澤出^{ツヤダシ}ヲ行フヘシ

イ 銅製品ハ「粗製ワセリン」ヲ塗リタル硬キ^コ刷毛ニテ磨クヘ

シ

ロ 眞鍮及白銅製品ハ微細ナル木炭末若ハ眞鍮磨ヲ塗リタ

ル軟布ニテ磨クヘシ

眞鍮磨使用後ハ清潔ナル布片ニテ丁寧ニ拭ヒ去ルヘシ

ハ 「ニツケル鍍金」セル器械ハ微細ナル角粉ヲ著ケタル軟布

ニテ擦リ又ハ「ニツケル磨」専用ノ布砥ニ「ニツケル磨」ヲ塗リ

高速度ニテ磨クヘシ

三 防^{サビ}銹^{ヨケ} 金屬製品ノ發銹ヲ防ク方法ニシテ淨拭ヲ施シタル後

品種ニ應シ左ノ各號ノ一ニ依リ行フヘシ

イ 油引 鋼製品ノ保全方法ニシテ清潔ナル軟布ニテ「流動

バラフィン」又ハ「黃色」ワセリン」ヲ薄ク全面ニ塗布スルモノト

ス但シ除濕貯藏ヲ行ハサル爲特ニ多量ノ油引ヲ要スルト

キハ「硼砂」カリ石鹼」又ハ「硼砂」ヲ用フヘシ

鋼製品ニ油引ヲ行フニハ成ルヘク手指ノ觸ルルコトヲ避

クヘシ殊ニ汗シミタル手ニテ取扱フヘカラス手入後ハ指

紋或ハ絲屑ヲ殘ササルコトヲ要ス

油引ヲ施シタル材料ノ發銹ノ有無ヲ檢スルニハ柔軟ナル

木綿ニテ拭ヒ更ニ「ガゾリン」石油等ヲ用ヒテ拭ヒ去リタル

後之ヲ行フヘシ

ロ 「ワニス引」粗大ナル金屬製品眞鍮製品及特別ノ塗料ヲ施シアルモノヲ除クノ保全方法

ニシテ其ノ品種ニ應シ「コパールワニス」「エナメル」若ハ「黒

ワニス」等ヲ刷毛ニテ塗り乾スモノトス

眞鍮製品ハ澤拭ヲナシタル後僅ニ温メ軟キ刷毛ニテ「金ワ

ニス」ヲ平等ニ塗ルヘシ

ハ 「ラツク引」「ブリキ製器械」特別ノ塗料ヲ施シアルモノヲ除クノ保全方法ニシテ

「樟腦ラツク」ヲ軟キ刷毛ニテ塗布スルモノトス

凡テ防銹塗料ヲ施シタルモノハ検査ノ際塗料ノ膨出又ハ輝裂
ノ有無ニ注意シ要スレハ之ヲ塗り更ヘ發銹ヲ防クヘシ

四 革具拭 革具ノ保全方法ニシテ其ノ目的ニ從ヒ左ノ各號ニ
依リ之ヲ行フモノトス

イ 革具ノ普通ノ手入ニハ表裏兩面ヲ乾キタル布片若ハ刷毛ニテ拭ヒタル後其ノ表面ニ「革具クリーム」ヲ塗り刷毛若ハ布片ニテ十分ニ摩擦スヘシ

ロ 革具ノ硬化ヲ防クニハ「革具クリーム」ヲ塗ルニ先チ表面ニ刷毛ヲ用ヒテ萎油ナシアテラヲ塗布シ摩擦スベシ

硬化セル革具ハ漫ニ之ヲ屈曲スルコトナク萎油ヲ塗布シタル後一日間放置シ柔軟ノ度猶足ラサルトキハ之ヲ反覆シ、指ニ纏ヒテ彎曲ヲ試ミ革ノ表面ニ輝裂ヲ生セス又革色稍變スルモ原形ニ復スレハ復色スルノ程度ニ至ルヘシ

ハ 汚染甚シキモノハ前二號ニ先チ五%藥用石鹼水ニテ洗ヒタル後布ニテ良ク水分ヲ拭ヒ去ルヘシ

五

防蟲 ムシヨケ

蟲蝕ヲ防ク方法ニシテ品種ニ從ヒ左ノ各號ニ依リ之

ヲ行フヘシ

イ 綿麻製品消毒繻帶材、料ヲ除ク、簿冊用紙類、羽毛及獸毛製品ハ蟲干ノ爲

晴天、乾燥ノ日ヲ撰ヒテ屋外ニ出シ日光ニ曝スヘシ布類ニ在リテハ之ヲ敲打シ塵埃ヲ去ルヲ要ス

綿麻製品消毒繻帶材、料及糊、氣ナキモノヲ除ク、簿冊用紙類、羽毛及獸毛製品、角質製品

ハ箱若ハ戸棚ニ納メ容積一「立方メートル」ニ對シ約五十「グラム」ノ「ナフタリン」ヲ撒布スヘシ

ロ 粗大ナル木製品及木製把柄等ニシテ既ニ蟲害ヲ受ケタルモノハ防蟲液(甲)ニ二十四時間乃至四十八時間浸漬シタル後之ヲ氣乾スヘシ但シ使用ニ堪ヘサル部分ハ豫メ之ヲ除去スヘシ

ハ 毛、絨等ニ發生シタル害蟲ヲ勦滅スルニハ防蟲液(乙)ヲ撒

布シ之カ浸潤ヲ圖ルヘシ

ニ 生藥類ニ發生セル害蟲ヲ勦滅スルニハ概ネ一時間六十度乃至八十度ノ乾熱ニ觸レシムヘシ

六

防微^{カモク} 革具及布類ニ微ノ生スルヲ防ク方法ニシテ温暖、濕潤

ノ季節ニ當リテハ第四條ニ依リ特ニ通氣、乾燥ヲ圖ルノ外既ニ微ヲ生シタル場合ハ品種ニ從ヒ左ノ各號ノ一ニ依リ手入ヲ行フヘシ

イ 革具及布張函類ノ微ハ刷毛若ハ絨布ニテ擦リ五%「クレゾール石鹼水」^{布張函類ニ在リテハ五%「フォルマリン水」}ニ浸シタル布片ニテ拭ヒ風乾スヘシ

革具ノ微痕去リ難キトキハ五%藥用石鹼水ニ浸シタル布片又ハ刷毛ニテ擦リ效ナキトキハ更ニ硝子破片ノ縁ニテ

輕ク擦ルヘヘシ

微痕褪色スルトキハ黒革ニ在リテハ「ニグロシン液」自然色
ノモノニ在リテハ「オレンジ液」ヲ塗リ磨擦スヘシ

ロ 綿布、麻布類ニ微ヲ生シタルトキハ日光ニ曝シテ敲打シ
若ハ洗濯シテ乾燥スヘシ

七

洗濯 綿布、麻布等ノ汚染ヲ除去スル方法ニシテ左ノ各號ノ
一ニ依リ之ヲ行フヘシ

イ 綿布、麻布類ハ一夜水ニ浸漬シ置キ石鹼水ニ浸シタル海
綿或ハ刷毛ヲ以テ著シク汚染シタル部分ヨリ輕ク擦リ次
テ清水ニテ數回濯キ絞リテ水分ヲ去リ皺ヲ伸ハシテ乾燥
シ九分通り乾燥シタルトキ火熨斗類ヲ用ヒテ仕上ヲ行フ
ヘシ